

人間の営みにおける身体感覚の概念化 —「明るい」と「あたたかい」を中心に—

松浦 光

キーワード： 概念メタファー、身体経験、概念化、「明るい」、「あたたかい」

1. はじめに

本来、身体経験において視覚で経験される「明るい」と触覚で経験される「あたたかい」¹が身体感覚をあまり感じさせない「明るい人柄/温かい人柄」、「明るい家庭/温かい家庭」といった人間の性格や人間の集まる空間をメタファー表現として表すことができる。

(1)自分が上手に売り込めないで、どうして商品を売り込むことができるだろう。声が良いか、訛（なまり）がないなどの条件はどちらかと言えば副次的な条件に過ぎない。明るく温かい人柄を感じさせることが最も重要な条件である。

(日経流通新聞 1990/05/24)²

(2)結婚相手は実業家の男性。吉瀬さんは自身のブログで「彼は10歳年上。明るく温かい幸せな家庭を築いていきたい」とコメントした。

(日本経済新聞 2010/12/28)

また、(1)、(2)の用例のように、この2語は同一文脈に並ぶ関係にあり、置き換えも可能である。但し、置き換える場合、「明るい」と「あたたかい」は、共にプラスの感情を表す言語表現でありながら、メタファー的意味の実現に明らかな違いが生じる。この動機づけには、Lakoff and Johnson (1980)における「概念メタファー」³の存在が影響を与えていると考えられる。本稿では、人間の視覚と触覚という身体感覚を通して概念化される「明るい」と「あたたかい」を考察の対象とし、その概念化のプロセスを明らかにする。

2. 「明るい」と「あたたかい」における捉え方

最初に、「明るい」と「あたたかい」の辞書の記述について確認する。『大辞林』第三版(2006)では、以下のように記されている。

・あかるい [明るい]

〔動詞「明（あか）る」から派生した語〕

①光が十分にある状態である。また、そのように感じられる状態である。

「－・い照明」 「－・い部屋」 「月が－・い」 「－・いうちに帰る」
「ライトが顔を－・く照らし出す」 「－・いレンズ」

②色が澄んでいる。黒や灰色などがまじらず鮮やかである。彩度が高い。

「－・い色」 「－・い紺」

③人の性格や表情、またかもし出す雰囲気などが、かたわらにいる人に楽しく、朗らかな感じを与える。晴れやかだ。楽しそうだ。「気持ちが一・い」「－・い家庭」「－・くたくましく生きる」「－・い人柄」「－・い雰囲気」「－・い小説」

④物事の行われ方に、不正や後ろ暗いところがない。公正だ。公明だ。「－・い選挙」「－・い政治」

⑤未来のことに對して、希望をもつことができる状態である。「前途が一・くなった」「－・い見通し」

⑥（「…にあかるい」の形で）その物事についてよく知っている。精通している。くわしい。「法律に－・い人」「数字に－・い」

▽←→ くらい [古くは同じ意味を「明（あか）し」が表したが、近世以降「明るい」が代わって用いられるようになった]

〔派生〕 ーさ（名） ーみ（名）

〔慣用〕 足元（あしもと）のー中（うち）

（『大辞林』第三版：22）

・あたたかい [暖かい・温かい]

〔形容動詞「あたたか」の形容詞化したもの。近世以降の語〕

①気温や温度が程よい。あったかい。「－・い日ざし」

②金銭が十分ある。あったかい。「懐が一・い」

③愛情や思いやりがある。←→ 冷たい「－・い手をさしのべる」

〔派生〕 ーげ（形動） ーさ（名） ーみ（名）

（同上：49）

この意味記述から「明るい」の③の意味と「あたたかい」の③の意味は、いずれも感情を表すことが確認できる。さらに、「明るい」の①の意味と「あたたかい」の①の意味が光や熱を知覚することによる身体経験であることが分かる。しかし、どのような認知プロセスによって身体感覚の感情への概念化が起きているかはこの記述からは分からない。

次に、メタファーにおける「明るい」と「あたたかい」を考える。光と感情に関するメタファーとして Kövecses(2002)では、<<HAPPINESS IS LIGHT>>、あたたかさと感情に関するメタファーとして Grady(1997)では、<<AFFECTION IS WARMTH>>が挙げられている。

特に、Grady(1997)では、直接的な身体経験を基盤とした概念メタファーであるプライマリー・メタファーが提案され、リスト化が試みられている。その流れを汲み、日本におけるメタファー研究では、鍋島(2011)によってプライマリー・メタファーのリストが部分的にまとめられている。このリストにおいて「明るさ」と「あたたかさ」に関するものを確認する。

表1 「明るさ」と「あたたかさ」に関するプライマリー・メタファー

サキ領域	モト領域	基盤
幸せ	明るさ	「明るさと安全や暖かさなどの相関」
愛情	暖かさ	「愛情と接触による身体の温かさの相関」

鍋島(2011 : 51)より抜粋

表1 から共に身体経験における視覚・触覚という感覚が基盤になるにも関わらず、「幸せ」、「愛情」へと性質の違う感情に写像されることが分かる。本稿では、これらの感覚の概念化のプロセスという点に着目する。

そこで、現象に対する捉え方という観点を導入する。松浦(2014)では、「明るい」には、光を発すると捉えられる光源として発光体が存在し、メタファー的意味の実現に影響を与えていることを指摘した。

本稿では、「あたたかい」において、熱を発する発熱体という捉え方を提案する。つまり、発光体から発せられる光と発熱体である人肌に対する熱の経験がメタファー的意味の実現に影響を与えていることを主張する。

3. 「明るい」と「あたたかい」の考察

ここでは、身体経験における「明るい」と「あたたかい」の性質を考察した

後、視覚・触覚という観点から感情・空間・性格における「明るい」と「あたたかい」のメタファー的意味の実現を実際の用例を基に考察する。

3.1 身体経験における光と熱

(3)～(6)は、光の明るさに関する用例である。

(3)センターは鉄骨平屋約二千四百平方メートル。従来、旧宮崎村役場を使っていたが、生涯学習センターや図書館、地域活動の促進機能を併せ持つ施設として一年掛けて改築。天井を高くして自然光が届きやすい明るい空間にした。

(中日新聞 2011/03/21)

(4)上部にあった棚を取り、とても広々とした空間になりました。LIXIL「ピアラ」の照明で明るい空間となり、さらに開放感を演出します。

(http://www.mizulabo.co.jp/works/w_lavatory/lixil_piara_an-extensive-washroom.html)

(5)山頂から 15 分とかからないで弘法清水へと戻る。ここまで下がると雪はそう深くなく、水場は顔を出していた。予想に反して、上空を覆っていた厚い雲も消え、明るくなってきた。

(http://ftk-ac.net/04_yuki/2010_yuki/4458_bandai/4458_bandai.html)

(6)また終始、明るい時間帯を歩くため、夜の登山に比べると安全。ただ明るい時間帯とは言っても、早朝や下山に時間がかかった場合は暗く見通しが悪くなることもあるので、ヘッドライトなどは忘れずに。

(<http://news.mynavi.jp/news/2014/07/01/011/>)

(3)では、光源である太陽からの自然光が空間に届くことを「明るい」と捉えている。(4)にあるように、「明るい空間」は棚などの遮蔽物がなく広々して、照明などの光源で照らされて、開放感がある。そして、(5)「覆っていた厚い雲」など遮蔽物に覆われず、光源の太陽光からの光が差し込むことも「明るい」と捉えられる。また、(6)にあるように、「明るい時間帯」には、太陽光が照らすため、我々は、対象を見ることができ、安全に動くことができるのに対して、「暗い時間帯」は、見通しが悪く、危険で動くことができない。

(7)～(9)は、人肌のあたたかさに関する用例である。

(7)少し時間がたって気になり外へ出ると息子がポツンと座っていました。とても寂しそうな子どもの後姿を見たときとても反省しました。そして子どもに

そっと手を差し伸べ、「ごめんね。〇〇(息子の名前)のこと嫌いじゃないから。」と自然に子どもを抱きしめることができたんです。外は寒い冬の季節だったので抱きしめたときとても子どもの体が冷たかった・・・。けれど抱きしめることで子どもの身体が温かく感じました。子どもも抱きしめられることで愛されてると安心から涙が出たようです。

(http://www.wp-canon.com/enjoy/grow/post_50.html)

(8)「頑張ってね」と声を掛けると、メンバーは温かい手で私の手を包み「ありがとう」とにっこり笑った。つい頬がゆるむ。人と握手したのって、いつ以来だろう。見回すと、誰もがほほ笑み、いい顔をしていた。

(読売新聞 2014/06/19)

(9)兄が「3人でお昼を済ましてこいよ」というので、出かけて戻ってくると、母は息を引き取っていた。まだ温かい亡きがらにすがって声をあげた。

(日本経済新聞 2013/06/30)

これらの用例では、人が発熱体として捉えられている。(7)では、寒い夜に冷たくなった子どもの身体を親が抱きしめることであたたかく感じる様子が描かれている。子どもは、抱きしめられることによって人肌のあたたかさに愛情を感じる。人間にとって、生まれて初めて感じるあたたかさが親の肌のあたたかさである。それに対し、冷たいと感じるのは、人がいない寂しい状態である。そもそも、人は、愛情がなければ、人肌の熱を感じるほどの接触をすることもしない。(8)「温かい手」から人の握手のような肌と肌の接触に対して「あたたかい」と捉えることが指摘できる。但し、(9)「まだ温かい亡がら」のように、人は亡くなると徐々に体温が下がっていく。

人肌は、直接身体と接することにより、熱が触覚で知覚される。よって、人肌からの熱が、知覚者に触れることによって発熱体として捉えられる。

3.2 メタファー的意味における「明るい」と「あたたかい」

(10)、(11)では、「明るい気持ち」と「温かい気持ち」について考える。

(10)これまで、どこの病院も、予約とは名ばかりで、長時間待たされるのは当たり前。しかし、この病院は予約時間通りに診察してくれます。病状をきちんと説明してくれ、薬の飲み方や費用のことなども患者の意向をしっかりと聞いて処理してくれます。

これこそが患者の目線に立った診察ではないかと思います。暗くなりがちな

病気との闘いに、先生の変わらぬ態度とわかりやすい説明は「きっと病気も良くなる」と、明るい気持ちにさせられる病院です。

(東京新聞 2013/10/14)

(11)家へ帰る途中、大手のタイヤ店の前を通りかかった。車がちょうど道路に入って、一人のスタッフがその後をついていって、深くお辞儀をした。赤信号で車は止まっていたのだが、スタッフは帰らずにその車をじっと見ていた。もしかすると、それは、大手の店のマニュアルに載っているだけのことかもしれないが、私はとても温かい気持ちになっていた。

(東京新聞 2010/02/15)

(10)では、病気で暗くなっている時に、医者「変わらぬ態度とわかりやすい説明」によって「明るい気持ち」になると捉えられている。つまり、病気で活力のない状態が言動によって、元気になることが「明るい気持ち」である。我々は、光が照らす「明るい」状態では、対象を見ることができて、活動することができる。これを基盤に、発光体からの光に照らされることで、知覚者は行動可能になり、元気になる。言い換えれば、医者が発光体であり、医者の発する言動が光として知覚者には捉えられているのである。

一方、(11)では、「タイヤ店のスタッフの深いお辞儀」によって「温かい気持ち」になると捉えられている。我々は、身体経験において肌と肌の接触に対して「あたたかい」と捉えることができるように、人間の親しみや優しさなどの愛情に関する感情を感じることで「あたたかい」と捉えられる。ここでは、スタッフが発熱体で知覚者への言葉に込められた親しみや優しさなどの感情を熱と捉えることが「温かい気持ち」であると言える。

(12)～(15)は、「明るい」と「あたたかい」において、感情が表情に表れるメトニミー表現である。

(12)「作業しながらのおしゃべりが楽しい」「利用者さんから元気をもらう」利用者、職員に交じり、縄跳びを組み立てる六、七十代の女性らの表情は明るい。

(中日新聞 2010/08/26)

(13) 受験生や引率者の控室となった建物では、受験生同士で昼食を取りながら試験内容を話合ったり、引率の教員に報告したりする姿が見られた。すべての試験を終えると、一様に緊張感から解放され、明るい表情を浮かべていた。

(中日新聞 2014/01/20)

(14) 三十七段のはしごに高さ九メートルのやぐら。その上で若者二人が必死で獅子舞を演じる。ジャンプしたかと思えば、コウモリのようにぶら下がる。肩車だってやっつてのける。彼らが練習するのは、県無形民俗文化財の朝倉の梯子（はしご）獅子。保存会長の月東金夫さん（59）が厳しく、温かい表情で見守る。

（中日新聞 2006/09/10）

(15) 盛岡市民福祉バンクの小山渉事務局次長は、バンクに入ってから四半世紀近く馬場さんのそばにいた。障害者に接するときは実に温かい表情を見せ、仕事に臨む時は自分にも部下にも厳しかった。

（読売新聞 2004/12/14）

(12)のように知覚者が楽しくなったり、元気になったりすると感情が明るくなり、表情に表れる。これは、知覚者が活動できるようになったことで、発光体となり、光となる言動を発している状態である。また、(13)のように試験の緊張から解放され、安心感や爽快感を覚えると「明るい表情」になる。これは、身体経験における雲・霧などの遮蔽物がなくなって、光が差し込む状態を基盤としている。従って、精神的な遮蔽物として捉えられていた緊張が消えて、自由に活動できることが安心感や爽快感として感情が捉えられ、表情に表れている。つまり、好ましい出来事が起こった知覚者が発光体となり、好ましい感情が光として捉えられ、顔に表れるのが「明るい表情」である。

それに対し、「温かい表情」は、知覚者が対象に愛情が感じられるかが問題になる。これは、身体経験において肌と肌との接触が基盤となっているからである。(14)では、若者に対して、「見守る」ことにより、(15)では、障害者に接することにより、「温かい表情」が表れている。知覚者が発熱体として、愛情を感じることで熱として捉えられる。言い換えれば、知覚者の対象に対する愛情が感じられる表情が「温かい表情」である。

さらに、(16)、(17)では、空間におけるメタファー的意味での「明るい」と「あたたかい」に関する用例について考える。

(16)今は景気も悪く、お付き合いで飲むということも減っています。ただ、忘年会や新年会などは、参加して、極力明るい雰囲気を作るようにしましょう。一人だけ、暗かったり盛り上がれなかったりしない限りは、強引に、お酒を勧められることはありませんから。

（BCCWJ）

(17) 3年ほど自宅で過ごし、27歳の時に知人の紹介で別の会社でアルバイト。人間関係が苦手な自分を見守ってくれる温かい雰囲気が心地よく、1年10カ月勤めたが、同僚とうまく話せないことなどがストレスになって、続けるのがしんどくなった。

(毎日新聞 2012/12/24)

(16)「明るい雰囲気」は、知覚者が参加することによって作ることができる。知覚者が発光体となって周辺の人々に、元気に活発な言動をすれば光を放っていると捉えられる。これは、光が空間を照らし、周辺に届く性質を持つからである。

一方、(17)「温かい雰囲気」は、「明るい雰囲気」とは違い、「見守る」などの知覚者が対象に愛情を感じなければ作ることができない。例えば、我々は、調度品や家具やカーテンなどの人が愛情を込めて作った想定のものには「あたたかい」と感じることができる。こういった誰かのぬくもりを感じるものを置くことで、「温かい雰囲気」を作ることも可能である。しかしながら、人の存在を想定できない機械で作ったような人工物には冷たいと感じてしまう。人は、愛情を感じるにより発熱体となり、親しみや優しさなどの感情の熱を発することができ、それに満たされる空間が「温かい空間」である。

今までの考察から「明るい」と「あたたかい」は、メタファー的に感情・空間を表すことが分かる。これらを踏まえて、(18)、(19)について考える。

(18)自分が上手に売り込めないで、どうして商品を売り込むことができるだろう。声が良いか、訛（なまり）がないなどの条件はどちらかと言えば副次的な条件に過ぎない。明るく温かい人柄を感じさせることが最も重要な条件である。

((1)再掲)

(19)結婚相手は実業家の男性。吉瀬さんは自身のブログで「彼は10歳年上。明るく温かい幸せな家庭を築いていきたい」とコメントした。

((2)再掲)

(18)にみられる「明るい人柄」は、楽しげで元気な人柄を表し、「温かい人柄」は、愛情を持って人と接触することができる人柄を表すことになり、意味が変わる。「明るい人柄」は、不特定の世間一般の人々に対しても、楽しげで、元気な言動をする人柄である。発光体として、周辺の人々を照らし、光である楽し

げで、元気な感情を届けることができるのが「明るい人柄」と言える。一方、「温かい人柄」とは、発熱体として捉えられるため、人の存在が想定できるが前提である。ある人の人柄に対し、親しみや優しさなどを感じることができれば「温かい人柄」と捉えることができる。

さらに、(19)における「明るい家庭」と「温かい家庭」でも、意味に違いが生じる。活動的で賑やかな元気でいられる家庭は、発光体である人が照らす「明るい家庭」である。「温かい家庭」は、発熱体である人肌が存在し、家族が思いやりを持って見守り、助け合うような家庭を表す。

以上から、「明るい」には、人との活動、「あたたかい」には、人への愛情、という性質が指摘できる。ここからも、「明るい」には、<<HAPPINESS IS LIGHT>>、「あたたかい」には、<<AFFECTION IS WARMTH>>がメタファー的意味の実現に影響を与えていることが考えられる。

3.3 「明るい」と「あたたかい」のメタファー的意味の実現の制約

今までみてきてように概念化のプロセスにおいて「明るい」は、視覚において光によって見えることで、活動できるという身体経験を基盤とする。一方、「あたたかい」は、触覚において人肌の身体接触によって熱を感じるという身体経験を基盤とする。これらが背景にあるため、メタファー的意味の実現の制約となって容認度が下がるような言語表現が存在する。

(20)、(21)は、人との活動が想定され、人を発光体として捉えているため「あたたかい」では、容認度が下がる。

(20)今は、PTA会長として子どもたちと接しています。児童数は減りましたが、元気で明るく、活発な子どもばかりです。

(読売新聞 2014/06/13)

(21)医薬品工場に勤務する美野稚佳さん(25)は工場での社員の動き方を定める作業手順書が日本とフィリピンでどう違うかを調べ、「フィリピンでは日本よりも各部門の責任範囲などが緻密に書いてある」とまとめた。研修パートナーはひとつ年下の女性。英語は苦手だったが、絵を描いたりジェスチャーで示したりして乗り切った。

仕事中に歌ったり踊ったりする明るい同僚たちには驚きもあったが、「海外にも同じ会社で頑張っている人がいることが今、モチベーションになっている」と話す。

(日経産業新聞 2014/10/01)

「明るい」は、視覚に影響を与え、見えることによって活動できることをもたらす。従って、(20)「元気で活発」、(21)「仕事で歌ったり踊ったりする」など光と捉えられる言動は、周辺の人々にとって「明るい」と捉えられる。ここでは、(20)「子どもたち」や(21)「同僚」が発光体となっていることが指摘できる。発光体が光として言動を発することで、周辺の人々を照らし、感情を明るく変化させる。よって、人との活動に焦点が当たり、相手への優しさや思いやりなどの愛情が想定されないため「あたたかい」では容認度が下がる。

(22)～(24)は、「あたたかい」が身体経験として、人と人の肌の接触を基盤とする対象への優しさや思いやりなどの愛情が想定できる。そのため、発光体が不特定に光を発する「明るい」では容認度が下がる。

(22)財務相は環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）については「深く考えれば、資源のない国でこれから生きていくにはどうしたらいいかという結論は必ず見いだせる」と指摘。ＴＰＰ交渉の参加に前向きな姿勢を示した。ただ「痛みを伴うところには温かい手を差し伸べなければならない」とも語り、農家への補償の必要性についても言及した。

(日本経済新聞 2011/10/12)

(23)池田市綾羽の五月山動物園に、ふさふさの白いたてがみが特徴のポニーが仲間入りし、人気を集めている。

昨年12月下旬に兵庫県川西市の民家から引き取られてきた雄のロッキー(9歳)。最近、円形広場(直径8メートル)で運動する機会が増え、来園者がその姿に温かい目を向けている。

(読売新聞 2014/01/26)

(24)「気を付けて帰るんだよ」「はい、ちょっと止まってね」。同町新居屋の西小学校前。停止棒を持った広田さんが、横断歩道を渡る児童とあいさつを交わし、温かい目で見守る。

第一線の警察官として四十二年間勤務してきた広田さんは現在、町の嘱託職員として、地域の安全を守る先頭に立ち活躍している。

(中日新聞 2007/06/09)

(22)「温かい手を差し伸べる」、(23)「温かい目を向ける」、(24)「温かい目で見守る」は、愛情を抱く対象が具体的に特定できるため「明るい」では言い換

えられない。これには、「温かい手」と「温かい目」には、発熱体である愛情を与える側と愛情を受け取る側が存在しないと言語表現として成立しないという制約が存在する。身体経験において、「手」や「目」は、意志的に対象に向けることで、向けられる側はその感触や視線を感じるからである。

さらに、この愛情を与える側にとって愛情を受け取る側は、愛情を持って保護できる対象でなければならない。ここでは、身体経験として人肌のあたたかさに抱きしめる親と抱きしめられる子という関係が存在するからである。(22)「農家」、(23)「ポニー」、(24)「児童」は、社会的にも生物的にも保護が必要な弱い対象であり、愛情を受け取る側であると言える。よって、(22)「農家」から「政府」へ、(23)「ポニー」から「来園者」へ、(24)「児童」から「元警察官」へ、というように立場を逆にした場合に、「温かい手」や「温かい目」で接することは容認度が下がってしまう。

4. まとめ

我々は、身体経験において視覚を基盤に「明るい」、触覚を基盤に「あたたかい」と捉える。光は発光体、熱は発熱体によってもたらされる。これらの人間の捉える身体感覚によって、メタファーの意味の実現に違いが生じる。

そして、発光体と発熱体は、異なる性質を持つ。発熱体は、空間を照らすことで周辺の人々に光が届くかが問題となる。一方、発熱体は、人肌同士が身体的に接触することが必要となる。

身体感覚の概念化のプロセスにおいて、「明るい」は、視覚において光によって見えることで、活動できるという身体経験を基盤とする。一方、「あたたかい」は、触覚において人肌の身体接触によって熱を感じるという身体経験を基盤とする。

これらの概念化のプロセスを通して「明るい」と「あたたかい」は、メタファーの意味の実現に違いが生じる。「明るい」は、幸福に関する感情として概念化される。光によって見えることで、活動できることにより、元気、活発、楽しい、喜びなどの感情として捉えられる。また、遮蔽物が消え、光が差し込むことにより、安心感、爽快感などの感情としても捉えられる。それに対し、「あたたかい」は、人肌の身体接触によって熱を感じることから親しみ、優しさ、思いやりなどの愛情に関する感情として概念化される。

以上から、「明るい」は、人との活動が想定され、「あたたかい」は、人への愛情が想定されるということが指摘できる。発光体は、不特定の人を照らすこ

とができるが、発熱体は、愛情を感じなければ熱を感じることはない。この想定が一致しなければ容認度が下がってしまう。さらに、「あたたかい」は、特定の対象に感情を抱く場合、発熱体である愛情を与える側と愛情を受け取る側という関係が形成される。これには、身体経験として人肌のあたたかさに抱きしめる親と抱きしめられる子という関係が存在する。従って、愛情を与える側にとって愛情を受け取る側は、愛情を持って保護できる対象でなければ制約となり、容認度が下がる。

今後の課題として、気象現象の中での光と熱の関係の分析も深めていきたい。我々が、どのような気象現象から光と熱を概念化し、言語表現に反映させているかという観点から分析を進めていきたい。

注

- 1 「あたたかい」には、「暖かい」、「温かい」の2通りの表記があるが、本稿では熱に注目するため区別せず、引用に関連のある箇所以外は「あたたかい」と表記する。
- 2 用例中の傍線は断りのないものを以外全て稿者に拠る。例文番号は、全体を通しての通し番号を用いる。実線は分析対象表現、点線は分析対象表現以外の注目すべき箇所を示す。
- 3 本稿では、身体的経験豊富で具体的な起点領域(Source domain)から身体的経験があまりない抽象的な目標領域(Target domain)への概念領域間の体系的な写像関係を「概念メタファー」と呼ぶ。なお、本稿においては、<< >>と表記する。また、概念レベルのメタファーを具現化したものを「メタファー表現」と呼ぶことにする。

参考文献

- 久島茂(2001)『<物>と<場所>の対立』くろしお出版：東京
 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店：東京
 谷口一美(2003)『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』研究社：東京
 鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版：東京
 馬場典子(2002)「「腹が立つ」の動機付けに関する一考察」『言葉と文化』3, 31-44.

- 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻.
- 松浦光(2014)「現代日本語における光の捉え方と概念化—「明るい」と「暗い」を中心に—」『日本認知言語学会第15回大会予稿集』191-194.
- 松本曜(2007)「語におけるメタファー的意味の実現とその制約」山梨正明 他(編)『認知言語学論考』6, 49-93.
- 舩山洋介(2014)『日本語研究のための認知言語学』研究社：東京
- Grady,J.(1997) “Foundations of Meaning: Primary metaphors and primary scenes. ”
Ph. D. dissertation,University of California, Berkeley.
- Kövecses,Zoltán(2002)*Metaphor : A Practical Introduction*. Oxford:Oxford University Press.
- Lakoff ,George and Johnson, Mark(1980)*Metaphors We Live By*. Chicago:University of Chicago Press.(渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸(訳) (1986)『レトリックと人生』大修館書店：東京)
- Lakoff, George(1987)*Women, Fire, and Dangerous Things*.Chicago : University of Chicago Press.(池上嘉彦・河上誓作 他(訳)(1993)『認知意味論』紀伊國屋書店：東京)
- Lakoff,George(1993)The contemporary theory of metaphor.In Andrew Ortony(ed.),*Metaphor and Thought*, 202-251. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff,George and Johnson, Mark(1999)*The Philosophy in the Flesh*. New York:Basic Books.(計見一雄(訳) (2004)『肉中の哲学—肉体を具有したマインドが西洋の思考に挑戦する』哲学書房：東京)
- Ungerer,Friedrich and Schmid,Hans-Jorg (1996)*An Introduction to Cognitive Linguistics London/New York : Longman*(池上嘉彦他(訳)(1998)『認知言語学入門』大修館書店：東京)

参考資料

- 加藤俊二(1993)『身の回りの光と色』裳華房：東京
- 松村明(編)(2006)『大辞林』第三版,三省堂：東京

用例出典

- KOTONOA 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)

中日新聞・東京新聞記事データベースサービス

日経テレコン 21(日本経済新聞社)

毎索(毎日新聞社)

ヨミダス歴史館(読売新聞社)

Google<www.google.co.jp/>(検索期間 2014/10/10～10/22)